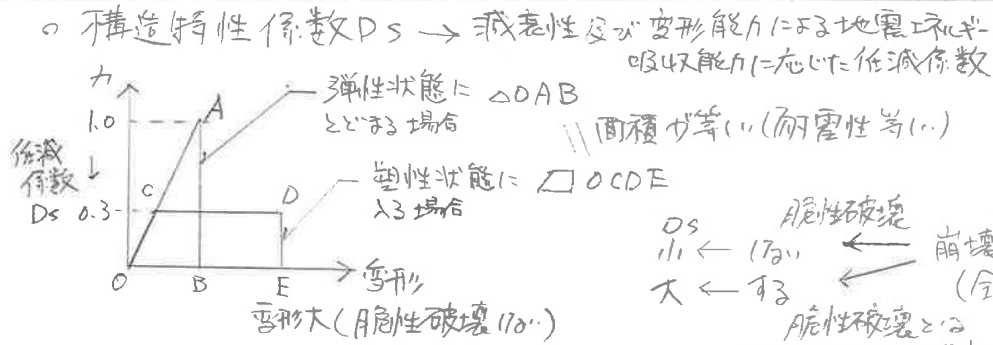


平成27年N0.14 鉄筋コンクリート構造の保有水平耐力計算

1. 構造特性係数 $D_s \rightarrow$ 全体崩壊形の前壊機構形成時の応力を用いて構造特性係数 D_s の判定を行う
2. 増分解析による計算時の外力分布 $\rightarrow A_i$ 分布に基づく外力分布とする
3. RC造スラブ付トラス梁の終局曲げ強度 \rightarrow スラブ筋の効果としてスラブ側につき、梁側から l_m 程度の範囲内のスラブ筋を考慮に入れる
4. 円形断面柱の曲げ終局強度の略算法 \rightarrow 等断面積、同一鉄筋本数 (各皿の主筋本数は同一) の正方形柱に置換する



○ 増分解析による計算時の外力分布

外力分布 (A_i 分布)

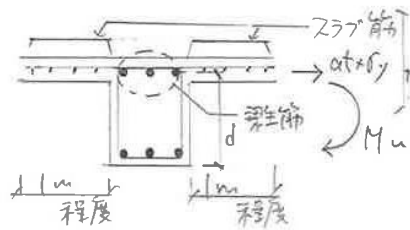
A_i : 建築物の振動特性に応じて地震層せん断力係数の高さ別の分布を表現する数値

脆性破壊
脆性破壊とは
(せん断破壊, 付着剥離破壊, 圧縮破壊)

前壊機構形成時の応力 (全体崩壊形)

D_s 小 \leftarrow (剛い) \leftarrow 脆性破壊
大 \leftarrow (柔らかい) \leftarrow 脆性破壊とは

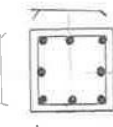
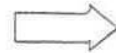
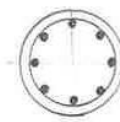
○ RC造スラブ付トラス梁の終局曲げ強度



$$M_u = 0.9 \times a_t \times \sigma_y \times d$$

a_t : 3φ長鉄筋の断面積
 σ_y : 3φ長鉄筋の降伏強度
 d : 1φりの有効せい

○ 円形断面柱の曲げ終局強度の略算法



等断面積
同一鉄筋本数
の正方形柱に置換する

各皿の主筋本数は同一にする